

平成4年度版

三重県こころの健康センター所報
(精神保健センター)

三重県こころの健康センター

は じ め に

7冊目の所報をお届けすることになりました。昭和61年の開設年度から、曲がりなりにも運営要領に定められた事業が展開でき、毎年1冊の所報としてまとめられたのも、偏に関係各位の暖かいご理解とご指導の賜物と、心から深く感謝しております。この場をかりて、改めてお礼申し上げます。

平成4年度も、ほぼ前年度の事業を引き継ぎ、ルチーンのセンター活動となりました。

ただ全体として見ますと、開設当初の、精神保健相談や教育研修を中心とした活動から、活動の幅は大きく広がって来ております。たとえば、技術援助の依頼先も随分多岐にわたるようになりました。また協力組織の育成援助についても、県下の地域精神保健活動が動き始めたことに対応して増加し、その内容も多彩になってきております。

この7年間で、センター事業の7本柱がそれぞれ重点項目であるという、県のセンターとして当然のあるべき姿に、ようやく近づきつつあるといえるのかもしれませんが。

今後は各事業について、精神保健専門機関としての位置づけに見合ったサービスが提供できるよう、さまざまな角度から検討を加えることが必要かと考えております。

心の健康づくりと精神障害者の地域ケア。これは小さなセンターには手に余る大きな課題ですが、職員一同頑張りますので、今後ともさらなるご支援をお願い申し上げます。

平成5年秋

三重県こころの健康センター

所長 原田 雅典

目 次

はじめに

I. こころの健康センター概要	1
1. 沿革	1
2. 業務	1
3. 施設の概要	2
4. 組織及び職員	4
II. こころの健康センターの活動	5
1. こころの健康センター業務	5
(1) 技術指導援助	5
(2) 教育研修	9
(3) 広報啓発	17
(4) 調査研究	23
(5) 協力組織の育成	29
(6) 心の健康づくり推進	39
(7) 精神保健相談	47
III. こころの健康センター図書目録	55

I. こころの健康センター概要

1. 沿革

2. 業務

3. 施設の概要

4. 組織及び職員

1. 沿革

○ 昭和61年5月

三重県こころの健康センター（精神保健センター）は精神保健法第7条の規定に基づき、地域精神保健活動の技術的中枢機関として、三重県津庁舎津保健所棟1階（津市桜橋3丁目446-34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

初代所長 原田雅典氏就任。

精神科医師1名、看護婦1名、保健婦1名、事務職1名、計4名の常勤職員が配置される。他に、電話相談員（嘱託）2名配置される。

○ 昭和62年4月

精神科ソーシャル・ワーカー（PSW）が初めて配置される。

○ 昭和63年10月

三重県久居庁舎（久居市明神町2501-1）の完成に伴い同1階に移転する。

○ 平成元年4月

県の出先機関として独立

心理技術者（CP）が初めて配置される。

2. 業務

当こころの健康センターは、「精神保健センター運営要領」（衛発第194号厚生省公衆衛生局長通知、昭和44年3月24日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

(1) 技術指導援助

地域精神保健活動を推進するために、保健所及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導ならびに技術援助を行なう。

(2) 教育研修

保健所で精神保健業務に従事する職員（精神保健担当者、保健婦等）に専門的研修と技術指導を行うほか、関係諸機関の職員には、教育訓練を行い、関係職員の技術的水準の向上を図る。

(3) 広報啓発

一般住民に対する精神保健知識の普及啓発を行うとともに、保健所が行う広報普及

活動に対して専門的立場から指導と援助を与える。

(4) 調査研究

地域精神保健活動を推進するために、必要な精神保健上の諸問題を調査研究するとともに、精神保健に関する統計及び資料を収集整備する。

(5) 協力組織の育成

地域精神保健の向上を図るために、精神医療施設や保健所その他の関係諸機関を単位としてつくられた協力組織の育成を図るとともに、他方、都道府県単位の組織を育成強化することに努め、地域精神保健活動に対する住民の協力参加や各種社会資源の活用を円滑に行う。

(6) 心の健康づくり推進

近年の社会生活環境の複雑化に伴い県民各層の間において、ストレスが増大し、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加している。これらの精神疾患に関する相談窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより住民の精神的健康を図る。

(7) 精神保健相談

保健所並びに関係諸機関が取り扱った事例のうち、複雑又は困難なものにつき実施する。また、これらのほか、一般住民の心の健康の保持、向上のために専門的な立場から相談指導を行う。

3. 施設の概要

(1) 所在地

[昭和61年5月1日～昭和63年10月8日]

三重県津市桜橋3丁目 446-34 三重県津庁舎保健所棟1階

[昭和63年10月9日以降]

三重県久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎1階

(2) 施設の状況

[昭和61年5月1日～昭和63年10月8日]

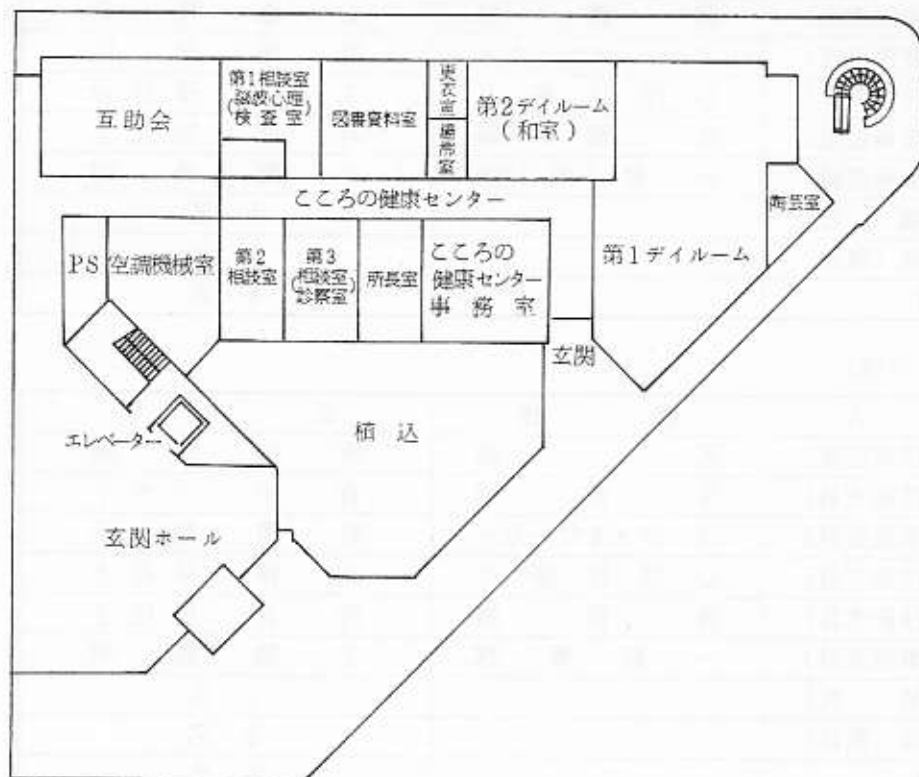
三重県津庁舎保健所棟1階 1室 52.9㎡

[昭和63年10月9日以降]

三重県久居庁舎1階

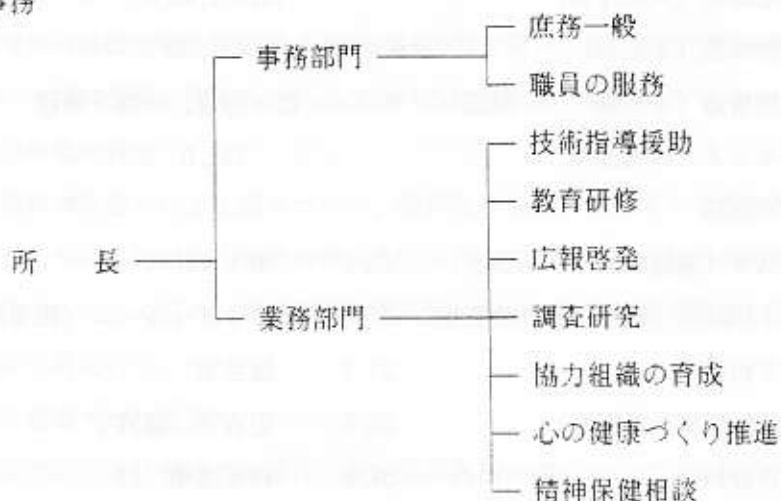
ア	敷地面積（久居庁舎）		11,617.29	m ²
イ	建物面積（本館棟）	延床面積	5,484.50	
ウ	建物構造（本館棟）	鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建		
エ	当センター占有面積		723.0	
オ	各室面積			
	事務室（電話相談室、所長室）	65.2	第1デイルーム	140.4
	第1相談室（脳波、心理検査室）	30.8	第2デイルーム（和室）	44.8
	第2相談室	23.9	陶芸室	11.3
	第3相談室（診察室）	26.5	更衣室、湯沸室	12.0
	図書資料室	37.0	各室面積 計	391.9

三重県こころの健康センター平面図



4. 組織及び職員

所掌事務



職員構成
〔平成4年度〕

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	原田 雅典
副参事（事務吏員）	保健婦	安藤 良子
主幹（技術吏員）	ソーシャルワーカー	野里 知巳
主査（技術吏員）	心理技術者	久保 早百合
主査（技術吏員）	保健婦	河合 加代子
主事（事務吏員）	一般事務	小堀 義則
医師（嘱託）		1名
電話相談員（嘱託）		2名
計		9名

〔平成5年度〕

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	原田 雅典
副参事（技術吏員）	保健婦	倉田 つや子
主幹（事務吏員）	ソーシャルワーカー	野里 知巳
主査（技術吏員）	心理技術者	久保 早百合
主査（技術吏員）	保健婦	河合 加代子
主事（事務吏員）	一般事務	小堀 義明
医師（嘱託）		1名
電話相談員（嘱託）		2名
計		9名

Ⅱ. こころの健康センターの活動

1. こころの健康センター業務

- (1) 技術指導援助
- (2) 教育研修
- (3) 広報啓発
- (4) 調査研究
- (5) 協力組織の育成
- (6) 心の健康づくり推進
- (7) 精神保健相談

地域精神保健活動の推進を図るために、保健所ならびに関係諸機関に対し、事例検討会、社会復帰事業へのコンサルテーション等、技術指導援助を実施している。

平成4年度の技術指導援助回数は、統計、634回であり、平成3年度488回よりも、30%増えており、元年度の約2.5倍となっている。

このうち、保健所に対する技術指導援助は、195回であり、昨年よりやや増加しているものの、経年的にみて、横ばい状態といえる。(表1)

また、関係機関に対しては、その要請に応じて、研修会での講義、講演、ケースコンサルテーションを行っているが、平成3年度の307回に比べると、439回と4割以上の増加があり、関係職域の拡大や、ニーズの高まりと共に、今後も益々増加するものと思われる。(表3)

表1. 平成4年度 保健所への技術指導援助実施状況

保健所	実施回数	参加対象者延数	技術指導援助回数						指導内訳		
			医師A	ソーシャルワーカー	保健婦A	心理技術者	保健婦B	医師B	事例検討会	デイケア	その他
桑名	9	41	1	1	2	4	3		2		7
四日市	17	189	2	3	2	3	7	3	4	4	9
鈴鹿	22	177	3	4	4	7	7	1	4	6	12
津	20	121	1	3	1	6	8	2	3	3	14
久居	23	1,503	2		1	8	12	3	3		20
松阪	27	243	1	10	1	3	12		2	5	20
伊勢	9	91		2	2	4	2	2	4	2	3
志摩	21	74	8	1	2	2	2	7	8		13
上野	19	131	2	4	1	3	10	2	7		12
尾鷲	22	161	1	3	2	11	6		2	6	14
熊野	6	82	1		1	2	2		3		3
合計	195	2,813	22	31	19	53	71	20	42	26	127

表2. 平成4年度 事例検討会の事例名

保健所名	実施月日	事 例
桑 名	4 5 26	病院から訪問依頼のあった憑依体験のケースにかかわって
	4 8 28	精神的に未熟な女性が母となったケースにかかわって
四 日 市	4 5 13	精神不安定の続く母親とその子供にかかわって
	4 7 22	アルコール依存症の夫を持つ妻への支援をめぐって
	4 11 11	単身で痴呆を伴うケースの支援をめぐって
	4 12 9	トラブルをよくひきおこすN君への支援をめぐって
鈴 鹿	4 5 15	集中力に欠け、治療の継続困難なケースとのかかわり
	4 7 2	閉じこもりがちな場面緘黙の女子にかかわって
	4 10 1	対人恐怖の強いケースとかわって
	5 1 26	育児不安を訴えるうつ病の母親を支援して
津	4 6 11	30数年間の入院生活から家庭復帰にむけて支援
	4 10 27	独り暮らしの抑うつ神経症女性への支援をこころみで
	5 2 5	家族会活性化に向けての保健所の役割について
久 居	4 8 25	アルコール依存症、うつ病の夫をもつ不安神経症のケースにかかわって
	4 11 24	ダウン症児をもつ産後神経症の事例とかわって
	5 2 19	被害妄想をもつケースとかわって
松 阪	5 2 23	警察、福祉、医療、保健がかかわった一事例
上 野	4 6 17	社会との交流をもたないケースに接して
	4 8 19	作業所通所ケースを通じて
	4 10 7	アルコール依存症患者の支援について
	4 11 4	体幹機能障害を合併した精神分裂病ケースの生活援助
	4 12 2	不潔強迫神経症をもつ妊婦とかわって
	5 1 20	急性期の精神疾患患者とのかかわりを通じて
	5 2 3	作業所通所を目的としてデイケアに参加したケースへの支援

保健所名	実施月日	事例
伊勢	4 6 2	母子関係が問題と思われる家族への対応
	4 9 1	落ち込みをコントロールできないケースへの支援
	4 12 1	強度の痩せを呈し、不眠を訴えるケースへの支援
	5 3 2	精神症状はあるが、受診行動に結びつかないケースへの支援
志摩	4 6 12	家庭内葛藤が強く、子どもの養育に支障をきたしている母親への かかわり
	4 7 6	登校拒否と非行の末、家族から孤立してしまったケース
	4 9 3	放浪の末、在宅するようになったケースの受診行動を支援して
	4 10 8	地域の受け入れが悪く孤立し、問題行動をくり返すケース
	4 1 7	社会復帰しつつあるが、継続治療に不安のあるケースへのかかわり
尾鷲	4 5 12	分裂病患者の日常生活への支援
	4 7 15	キーパーソンのいない精神障害者家族の支援について
	4 9 8	家族と本当の困り事について話せないケースへのかかわり
熊野	4 6 30	精神分裂病患者の在宅ケアで保健婦の果たす役割について
	4 9 11	家庭内で不安定な精神状態にある身体障害者について
	4 11 13	一人暮らしをしていた精神分裂病の女性

表3. 平成4年度 関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	職種別援助回数				援助内容		参加人員
		医師 (2名)	保健師 (1名)	保健婦 (2名)	心理技術 者 (1名)	ケース 援助	職員精神 保健指導	
福祉機関	48	19	3	4	24	22	26	365
医療機関	95	58	5	6	27	64	31	295
行政機関	84	42	10	11	21	12	72	430
教育機関	78	21	3	8	50	47	31	844
市町村	26	5	1	12	8	15	11	84
労働機関	25	13		9	5	14	11	104
司法機関	5	2	2		1	3	2	5
精神保健団体	18	8	2	7	4	3	15	443
学生教育実習	33	29	1	2	2		33	1,563
その他	27	11	2	10	5	7	20	152
合計	439	208	29	69	147	187	252	4,285

「教育の中心は、教師と生徒との関係にある。この関係を改善し、教師が教壇に立つことを喜び、生徒が授業に参加することを喜び、教師と生徒がともに成長するようになる。」

「本学は、この理念を基に、教育の質の向上を図る。そのために、教育の現場で実践されている教育者や研究者との交流を図り、最新の教育動向を把握し、教育実践に活かす。また、教育実践の成果を、教育関係者に発信し、教育の発展に貢献する。」

(2) 教育 研 修

ア. 研 修 会

「教育実践の成果を、教育関係者に発信し、教育の発展に貢献する。」

「本学は、この理念を基に、教育の質の向上を図る。そのために、教育の現場で実践されている教育者や研究者との交流を図り、最新の教育動向を把握し、教育実践に活かす。」

「教育実践の成果を、教育関係者に発信し、教育の発展に貢献する。」

「本学は、この理念を基に、教育の質の向上を図る。そのために、教育の現場で実践されている教育者や研究者との交流を図り、最新の教育動向を把握し、教育実践に活かす。」

研 修 会 名	内 容	期 間	対 象
初等・中等教育者研修会	初等・中等教育者向け研修会	10月	初等・中等教育者
高等学校教員研修会	高等学校教員向け研修会	11月	高等学校教員
大学教員研修会	大学教員向け研修会	12月	大学教員
教育実践者研修会	教育実践者向け研修会	1月	教育実践者
教育研究者研修会	教育研究者向け研修会	2月	教育研究者

昭和61年5月、県保健予防課分室として開設された当センターは、主に保健衛生機関の職員を中心とした研修を実施してきた。

平成元年4月1日付けで県の出先機関の精神保健センターとしてスタートし、本格的に活動を開始した。県下における精神保健の向上を図る総合的な技術中枢機関としての立場から、保健衛生機関にとどまらず保健衛生関係外の関連諸機関を対象とした研修を実施し4年を経過した。

平成4年度も、前年度と同様8本の柱で実施した。福祉、教育、医療、労働、司法等、精神保健推進のため教育研修を機に各関係機関との連携も深まってきている。

また、見学、実習も増加しており、精神保健活動への理解を深める機になればと願っている。

教育研修、見学、実習等の実施状況は表1のとおりである。なお、各々の教育研修については後に詳しく述べる。

表1. 平成4年度教育研修実施実績

ア. 研修会

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健担当者研修会	平成4年5月19日(火)	市町村福祉・保健衛生、県福祉事務所、保健所の関係者	31名
精神保健事例検討会	平成4年9月2日(水)	教育関係者	52
児童(青年)精神保健研修会	平成4年7月28日(火)	福祉、教育、医療、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	171
酒害保健研修会	平成4年6月6日(土) 10月28日(水)	福祉、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	119
地域精神保健研修会	平成5年 3月4日(木)	福祉、教育、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	248

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
精神保健専門講座 (精神保健相談員継続研修会)	平成4年7月30日(木) 7月31日(金) 8月4日(火) 8月5日(水)	保健所精神保健相談員及びP SW	72
老人精神保健研修会	平成4年5月9日(土)	福祉、医療、保健衛生、老人 施設、その他の関係者	218
社会復帰指導者研修会	平成4年9月～ 平成5年2月 月曜日 年 23回	保健所精神保健担当者	114

計 34回 1,025名

イ. 学生等、教育実習等

受講者名	実施回数	受講者数
三重臨床心理学研修会	1回	27名
三重大学精神神経科新入局員	1回	5
三重県消防学校学生	2回	178
三重県立看護短期大学1学年生 専攻科地域看護学専攻生	24回	1,231
三重大学医学部専門課程4回生	3回	103
集中サイコドラマ	1回	18
川崎医療福祉大学生	1回	1

計 33回 1,563名

(ア) 新任精神保健担当研修会

精神保健についての概要を理解し、地域に於ける精神保健活動の推進を図る。

日 程	内 容
平成4年5月19日(火) 10:00~16:30	I. こころの健康センター事業概要 センター主幹 野里 知巳 II. 講義 ① 精神保健のあらまし センター所長 原田 雅典 ② 精神保健相談のすすめ方 センター主査 久保早百合 ③ 福祉における精神保健活動 中勢福祉事務所主査 早川 聡美 ④ 地域における精神保健活動 センター主査 河合加代子

(イ) 精神保健事例検討会

不登校の事例を通して現代の中、高校生のもつ心の問題を知り、学校保健における精神保健活動のあり方について考える。

日 程	内 容
平成4年9月2日(水) 13:30~16:30	事例名 「摂食障害の生徒から学ぶ」 事例提供者 県立松阪商業高等学校 田中 和子 助言者 江戸橋神経科内科クリニック院長 森 泰博

(ウ) 児童（青年）精神保健研修会

児童、思春期の問題行動はその家族関係に関連するものも少なくない。

思春期の心の動きと家族の関係を中心にこうした子ども達と深いかわりをもつ関係者がより深く理解し適切な対応ができることを目的とした。

日 程	内 容
平成4年7月28日（火） 13：30～15：30	講演 「現代の子ども達－家庭訪問から考えること－」 講師 埼玉県所沢市教育センター スクールソーシャルワーカー 山下英三郎

(エ) 酒害保健研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり世界的にも大きな社会問題となっている。

アルコール依存症について適切な支援が展開できるよう関係者が、その病理について正しく理解し一層の連携を深めることを目的とした。

・第1回

日 程	内 容
平成4年6月6日（土） 14：00～16：00	講演 「アルコール依存症の親をもつ子供達」 講師 三重県立高茶屋病院医長 大越 崇 猪野 亜朗

・第2回

日 程	内 容
平成4年10月28日(水) 13:30~15:30	講演 「アルコール、仕事、世話やき、愛への嗜癖行動からみえてくるもの」 講師 三重県立高茶屋病院医長 猪野 亜朗

(オ) 地域精神保健研修会

社会、経済、疾病構造の急激な変化に伴い、現代の子ども達をとりまく環境は大きく変化し、それに関連すると考えられる問題も多々報告されてきている。

来るべき21世紀を支えていかねばならぬ子ども達をより健全に育成していくことは、ひとえに我々専門職を始め、各関係者の責務であると考えます。

そこで今、子ども達をどのように理解し適切に対応していくべきかについて学ぶことを目的とした。

日 程	内 容
平成5年3月4日(木) 13:30~15:30	講演 「最近の思春期の児童を考える方向性」 講師 京都大学教育学部教授 山中 康裕

(カ) 精神保健専門講座(精神保健相談員継続研修会)

精神保健相談員の資質向上を図ることにより、地域精神保健活動の推進に寄与することを目的とする。

日 程	内 容	
	午前（10時～12時）	午後（13時～16時）
7月30日（木）	「精神障害者の人権」 三重弁護士会 人権擁護委員長 加藤 謙一	「心理トレーニング」 日本女子大学人間社会学部 社会福祉学科教授 増野 肇
7月31日（金）	「心理トレーニング」 日本女子大学人間社会学部 社会福祉科教授 増野 肇	「家族会、作業所づくり」 大阪府門真保健所 保健福祉室長 本宮 忠純
8月4日（火）	「適応障害」 三重県こころの健康センター 所長 原田 雅典	「心理トレーニング」 日本女子大学人間社会学部 社会福祉学科教授 増野 肇
8月5日（水）	「心理トレーニング」 日本女子大学人間社会学部 社会福祉学科教授 増野 肇	「地域サポート ー制度を中心にー」 久居病院 P S W 畑中 寿美

（キ）老人精神保健研修会

高齢者人口が飛躍的に増加し、寝た切り、痴呆などの要介護老人が増加している。家族の介護能力が弱まりつつある今、地域の果たす役割は大切になってくる。今回は、「ボケ老人」の本質を知り地域介護について考えることを目的とした。

日 程	内 容
平成4年5月9日(土) 15:00~17:00	講演 「ボケ老人」の本質 －「地域医療」のいくつかの原則－ 講師 浜田クリニック院長 浜田 晋

(ク) 社会復帰指導者研修会

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とした。

実施方法は今年度より3ヶ月を1クールとして年2回実施した。

各回の受講者は次のとおりである。

	第 一 回		第 二 回	
	平成4年9月~11月		平成4年12月~平成5年2月	
受 講 者	四日市 鈴鹿 津 松阪 伊勢	片山紀美子 高山幸子 西崎水泉 丸山明美 中西園弓	久居 松阪 上野 尾鷲 熊野	中川久美子 湯浅菜美 中本陽子 小市慎治 佐藤理恵

また、受講者に対するプログラムは次のとおりである。

社会復帰指導者研修会プログラム

内 容	開催回数	第 一 回	第 二 回
	開催月	平成4年 9月～11月	平成4年 平成5年 12月～2月
オリエンテーション		1単位	1単位
集 団 指 導 実 習		10	9
生 活 技 術 指 導 実 習		8	6
作 業 指 導 実 習		4	3
専 門 講 義		3	3
計		26	22

※1単位4時間とする。

ア. パンフレット
 イ. センターだより「こころの健康」
 ウ. 見学者の受け入れ指導
 エ. 講演会、講義、座談会、連絡会等

(3) 広 報 啓 発

ア. パンフレット

イ. センターだより「こころの健康」

ウ. 見学者の受け入れ指導

エ. 講演会、講義、座談会、連絡会等

実施内容	実施時期	実施場所	実施者
パンフレットの発行	随時	センター	センター職員
センターだより「こころの健康」の発行	毎月	センター	センター職員
見学者の受け入れ指導	随時	センター	センター職員
講演会、講義、座談会、連絡会等	随時	センター	センター職員

今年度は県民への精神保健の知識の普及を図る目的で下記の事業を行った。

ア. パンフレット

今年度は精神保健パンフレットとして「精神障害者の就職」－病気を治しながら働きたい人のために－を作成、各関係機関に配布した。また、前年度作成した「思春期のこころの健康」が好評で増刷した。

表1. 平成4年度パンフレット発行状況

	発行部数 (部)
精神障害者の就職	2,000
思春期のこころの健康	1,500

イ. センターだより「こころの健康」の発行

今年度は、3回 (No.17、No.18、No.19) 発行した。

内容は次のとおりである。

平成4年度こころの健康センターだより年間発行一覧表

発行年月日	内 容	執 筆 者
No.17 平成4年 6月10日	音楽と心	三重大学教育学部 助教授 大谷正人
	精神障害者の職業リハビリテーション －医療関係者へのお願い－	三重障害者職業センター 主任カウンセラー 沖山雅子
	アルコール対策にとりくんで	三重県久居保健所 保健婦長 鈴木励子
	ボランティア活動と私	精神保健ボランティア 一期生 倉田慧香
	はじめてデイケアに参加して	精神保健ボランティア 一期生 S. F記

発行年月日	内 容	執 筆 者
	私の心の健康法 平成4年度教育研修計画	服 部 正 司 こころの健康センター
№18 平成4年 10月30日	精神保健と救護施設 第2回こころの健康づくりフェスティ バルを開催して フェスティバルに参加して 私の心の健康法	社会福祉法人敬愛会、救護施設 長谷山荘 指導員 小 田 毅 こころの健康センター 精神保健ボランティア 荒 川 淑 子 団体職員 鈴 本 清一郎
№19 平成5年 2月15日	出会いの場を開いて －聴き合って、学んだもの－ －松阪地域家族会－ 松阪工作所ができました 尾鷲保健所 デイケアを開始しました 長野研修旅行に参加して 初めて参加したクリスマス会 私の心の健康法	主婦 宮 西 いづみ 松阪工作所 所長 山 本 幸 子 尾鷲保健所保健予防課 上 野 勉 三重てのひら（精神保健ボランティア） 川 村 登 三重てのひら（精神保健ボランティア） 中 川 美 江 津市 坂 本 富 子

ウ. 見学者の受け入れ指導

医療関係機関からの見学者がほとんどで、センター事業を理解していただくよい機会であった。

表4. 平成4年度見学者

計173名

見学者	実施回数	人数
三重大学精神神経科新入局員	1	5
三重県立看護短期大学専攻科 地域看護学専攻生	1	19
三重大学医学部専門課程4回生	3	103
その他	12	46

エ. 講演会、講義、座談会、連絡会等

精神保健に関する知識の普及、啓発を目的に関係機関からの依頼により実施した。

今年度の講演、講義等の実施回数は31回で対象者は1,530名となっている。内容的には、ライフサイクルにおける心の健康、職場における精神保健、精神障害者の社会復帰など、内容は幅広い。中でも思春期や老年期に関する内容が目立つほか、女性のメンタルヘルスに関する内容も多く、現代社会が持っている問題の一端が表れている。

また、依頼先も保健所、行政、福祉、教育、医療、労働等各分野からで、ストレスや心の問題に関する関心が社会全般に高まっていることが分かる。今後もこの様な傾向が続くものと予想される。

表5. 平成3年度 他機関から依頼の講演会、座談会、連絡会議等

月日	名 称	内 容	対 象 者	場 所	主 催	派 遣 者
H4 5・30	三重県カウンセラー会	講演「こころの相談について考えること」 ～一精神科医の立場から～	カウンセラー会会員 50名	サンワーク津	三重県カウンセラー会	医師
6・7	第4回臨床心理学研修会	講演「分裂病の診断と治療」	臨床心理士会 27名	こころの健康センター	三重県臨床心理士会	医師
6・11	教育課題研修会	講演「職場における心の病とその対応」	四日市市小中学校教頭 70名	四日市市立視覚センター	四日市市教育センター	医師
6・29	中勢及び久居市社会福祉事務所精神障害者促進事業研修会	講演「精神保健のあらし」	管内保健・福祉担当者 30名	県久居庁舎	中勢福祉事務所 久居市社会福祉事務所	医師
7・9	松阪市中央公民館高齢者学習会「寿六字」	講演「高齢期の心の健康」	市内60歳以上の高齢者 70名	松阪市中央公民館	松阪市	医師
7・25	県立一志病院看護研修会	講演「看護の場におけるメンタルヘルスケア」	医師・看護婦 50名	県立一志病院	県立一志病院看護部	医師
7・30	講演会	講演「痴呆症状とその対応」 ～ほめたかな？そのときまわりはどうするの～	市町村保健婦、関係職員 民生委員、ヘルパー 30名	熊野保健所	熊野保健所	保健婦
9・10	訪問看護従事者研修会	講演「婦人と心の健康」	伊賀支部会員、各支部役員 50名	県上野庁舎	県職労伊賀支部婦人部	医師
9・16	訪問看護従事者研修会	講演「相談・面接技術」	現任看護婦、在宅看護婦 58名	三重県看護研修会館	三重県看護協会	保健婦
9・18	アイリスプラン推進地域講	講演「女性の心の健康について」	アイリスプラン受講生 40名	県熊野庁舎	紀南県民局	心理技術者
9・21	アイリスプラン推進地域講	講演「女性の心の健康について」	アイリスプラン受講生 50名	県尾鷲庁舎	紀北県民局	心理技術者

月日	名 称	内 容	対 象 者	場 所	主 催	派 遣 者
H4 9・22	メンタルヘルス研修会	講演「職場のメンタルヘルス」	北勢管内所属 50名	県四日市庁舎	県職員課	医師
10・6	メンタルヘルス研修会	講演「職場のメンタルヘルス」	南勢、志摩、紀州管内所 属長 50名	県松阪庁舎	県職員課	医師
10・6	講演会	講演「職場と家庭でのストレスへの処方」	上野ロータークラブ会 員 65名	上野商工会議所	上野ロータークラブ	心理技術者
10・12	メンタルヘルス研修会	講演「職場のメンタルヘルス」	本庁、中勢、伊賀管内所 属長 100名	県庁講堂	県職員課	医師
10・13	保健活動協力員研修	講演「痴呆老人への対応」	保健活動協力員 54名	海山町老人福祉セン ター	海山町	保健婦
10・23	在宅看養者看護教室	講演「介護者のこころの健康」	健康づくり推進員、役場 保健所職員 39名	嬉野町中原文化セン ター	久居保健所	保健婦
10・26		講義「精神障害の基礎知識と精神科救急」	消防学校学生 178名	県消防学校	県消防学校	医師
11・6	メンタルヘルスアシスタント講習会	講演「地域における精神保健活動」	受講生、保健所保健婦、 上野市社協職員 35名	県上野庁舎	上野保健所 上野市社協福祉協議 会	保健婦
11・16	平成4年度 第1回思春期教室	講演「精神科医からみた思春期の問題」	地区父兄 40名	亀山市社会福祉セン ター	鈴鹿保健所 鈴鹿市入道絡協議会	医師
12・10	カウンセリング面接技術研 修会	講義「カウンセリング面接技術」	尾鷲保健所職員 8名	尾鷲保健所	尾鷲保健所	心理技術者
H5 1・20	訪問看護婦等養成講習会	講義「相談・面接技術」	在宅看護婦 38名	市立四日市病院	三重県看護協会	保健婦
2・10	現職教育	講演「思春期と心の相談」	教職員 60名	久居高校	久居高校	医師

月日	名 称	内 容	対 象 者	場 所	主 催	派 遣 者
2・15	精神障害者福祉促進合同研修会	講演「精神保健のあらまし」	福祉事務所、市町村、保健所、民生委員 55名	尾鷲市中央公民館	尾鷲市社会福祉事務所 紀北福祉事務所	医師
2・19	熊野保健所管内関係職員研修会	講演「子どもを取り巻く社会の変化から子育てについて考える」	熊野保健所、市町村、県福祉関係職員 20名	熊野保健所	熊野保健所	心理技術者
2・25	こころの健康講座	講演「こころの健康について」	婦人組会員 30名	県久居庁舎	県職労一志支部婦人部	医師
3・1	保健所保健・福祉サービス調査推進会議	講演「精神障害と社会復帰」	保健所保健婦、市福祉ワーカー 18名	四日市市福祉総合会館	四日市市保健所 四日市市社会福祉事務所	医師
3・2	三重大学医学部4回生見学会	講義「こころの健康センター事業概要について」	三重大学医学部学生 36名	こころの健康センター	三重大学医学部衛生・公衆衛生教室	保健婦
3・3	三重大学医学部4回生見学会	講義「こころの健康センター事業概要について」	三重大学医学部学生 35名	こころの健康センター	三重大学医学部	精神科ソーシャルワーカー
3・4	三重大学医学部4回生見学会	講義「こころの健康センター事業概要について」	三重大学医学部学生 34名	こころの健康センター	三重大学医学部	医師
3・4	三酒地区すこやか講座	講演「セカンドライフを楽しく」～女性のストレスとメンタルヘルス～	地区婦人、保健婦 60名	あさけプラザ	四日市地域総合会館 あさけプラザ運営協議会	医師

計 31回 1,530名

精神保健センターは、「地域精神保健活動を推進するために必要な精神保健上の諸問題を調査研究するとともに、精神保健に関する統計及び資料を収集整備すること」とその運営要領に定められている。

統計及び資料の収集整備に関しては、センター開設当初より精神保健関係の各種出版物、パンフレット、研修会の講演テープ、新聞記事のスクラップ等出来る限りの収集整理を行い、関係各位からの問い合わせや貸出しに応じている。

精神保健上の諸問題の調査研究に関しては、平成4年度開催した「こころの健康づくりフェスティバル」参加者へのアンケート調査を実施した。また、全国精神保健センター長会への研究協力も行った。

こころの健康づくりフェスティバルについてのアンケート調査

平成4年9月26日（土）久居市総合体育館において、平成4年度こころの健康づくりフェスティバルを開催した。

この催しは、県内の社会復帰施設、共同作業所、保健所、病院、こころの健康センター、デイケア等地域社会の中で生活し社会復帰をめざす人々が一堂に集まり、家族、ボランティア、各関係機関職員の参加のもと、スポーツ、レクリエーションなどを通して交流と理解を深め、精神障害者の社会復帰を図る目的で平成3年度より実施している。

今年度は、病院の参加でグループ数が17と増え、昨年を50名程上回る約250名の参加者を得て、目的である交流の輪を大きくすることができた。

フェスティバルの閉会時、参加者にフェスティバルの感想や今後に向けての意見、希望等について、ハガキによる無記名のアンケート調査を実施した。アンケートの内容及び結果は次のとおりである。

こころの健康づくりフェスティバルに関する

アンケートのお願い

本日は、「こころの健康づくりフェスティバル」にご参加くださりましてありがとうございました。

今回、ご参加の皆様のご感想、ご意見を伺い、次回のフェスティバルをよりよいものにしていこうとアンケートをさせていただくことになりました。

お疲れのところ、誠に恐縮ですが、別添のハガキにご記入の上、9月末日までにご返送いただきますようお願い致します。

なお、集計結果につきましては、10月末日発行予定の「センターだより」に掲載させていただきます。

無記名で結構ですので、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

平成4年9月26日(土)

こころの健康センター

TEL 0592 (55) 2151

フェスティバルアンケート

※該当するところに○印をおつけください。

()の中へはご記入ください。

- ① 今日一日、楽しかったでしょうか？
はい・いいえ・どちらともいえない
- ② 他の参加者の方々とよく交流できましたか？
はい・いいえ・どちらともいえない
- ③ 今日ご参加の種目で何が一番よかったですか？
()
- ④ 参加されて困ったことはありませんか？
なし・あり(内容)
- ⑤ 今後のフェスティバルへのご意見、ご希望をお書き下さい。
()

ご記入者(メンバー・家族・職員・ボランティア・その他)

—ご協力ありがとうございました—

フェスティバルアンケート結果

(回収110名)

①今日一日、楽しかったでしょうか？

	メンバー	家族	職員	ボランティア	その他・不明	計
はい	37	19	26	15	6	103
いいえ	1	0	0	0	0	1
どちらともいえない	1	0	0	1	0	2

②他の参加者の方々とよく交流できましたか？

	メンバー	家族	職員	ボランティア	その他・不明	計
はい	25	17	19	13	6	80
いいえ	6	0	3	0	1	10
どちらともいえない	8	2	5	3	0	18

③今日ご参加の種目で何が一番よかったですか？

	メンバー	家族	職員	ボランティア	その他・不明	計
風船ゲーム	6	3	7	1	1	18
パン食い競争	4	4	2	2	1	13
ドッジボール	3	0	0	1	0	4
ウルトラクイズ	5	1	9	2	2	19
障害物借り物競争	3	3	2	2	0	10
追っかけ玉入れ	9	2	1	4	0	16
じゃんけんゲーム	7	3	5	3	1	19

④参加されて困ったことはありませんか？

	メンバー	家族	職員	ボランティア	その他・不明	計
なし	31	18	24	14	4	91
あり	8	1	3	2	0	14

⑤今後のフェスティバルへのご意見、ご希望をお書き下さい。

結果及びまとめ

200名の方に記入を依頼、110通の回答を得た。その内容は、メンバー41名、家族19名、職員27名、ボランティア16名、その他、不明7名である。

①の今日一日、楽しかったでしょうか？の問いには、「はい」と答えた人が103名（97%）あり、大部分の人より楽しい一日を過ごしたとの回答を得た。

②の他の参加者の方々とよく交流ができましたか？については、「はい」と答えた人が80名（74%）、「いいえ」は10名（9%）、「どちらともいえない」は18名（17%）との結果であった。「はい」を内訳でみると、メンバー25名（64%）、家族17名（89%）、職員19名（70%）、ボランティア13名（81%）、その他・不明6名（86%）であり、家族、ボランティア、職員、メンバーの順で交流ができたとの結果が出た。メンバーは、他の参加者に比べ、やや交流ができなかったと思っていることがわかった。

③の参加種目で何が一番よかったですか？との問いには、ウルトラクイズ（19名）、ジャンケンゲーム（19名）が同数でトップを占めた。年齢、性別に関係なく楽しめる種目で、人気があったように考えられる。また、ドッジボール（4名）、障害物借り物競争（10名）は、動きが激しく、体力が必要な種目であるためにか、他の種目に比べ人気がなかったようで、今後の種目選定の参考になった。

④の参加されて困ったことはありませんか？は、「なし」と答えた人が全体で91名（87%）、「あり」と答えた人が14名（13%）であった。

困ったことの内容は、

- ・マイクの声が館内に響いて聞こえなかった。（メンバー1名、家族2名）
- ・足に障害があって、ドッジボールに出場できず残念。（メンバー）
- ・おやつを食べながら見たかった。（メンバー）
- ・女子トイレのペーパーが不備。（メンバー、家族）
- ・役割を具体的にしてほしい。（職員）
- ・きれいな方が多くて、自分の前の女の子を思い出した。（メンバー）
- ・ボランティア同志の名前がわからなかった。（ボランティア）

などであった。

⑤の今後のフェスティバルへのご意見、ご希望については、メンバー29名、家族15名、職員20名、ボランティア17名、その他・不明3名の計84名から回答があった。

その内容は、

- ぜひ来年も続けてほしい。(19名)
- 楽しかった。(12名)
- 会場がよかった。(5名)
- 賞品がよかった。(3名)

など、来年以降もフェスティバルの開催を希望する声が多くあった。

種目に関する内容では、

- 種目を多くして。(2名)
- 綱引きを取り入れて。(2名)
- 対抗リレーをしたい。(3名)
- 個人競技を多くして。
- 全員参加種目を多くして。

などのほかに、ウルトラクイズの問題に関する事、追っかけ玉入れのルールに関する事などがあつた。また、屋外での開催やボランティアからは、作品の展示のほかに即売をしたらどうかとの声もあつた。

今回のアンケートを参考にして、5年度のこころの健康づくりフェスティバルが、一層充実し、意義のあるものになるようスタッフ一同が努力していきたいと考えている。

ア. 関係団体への協力援助

(ア) 地域家族会連合会(会費) 等(二年度)

本会は高齢化が進展するにつれて、介護、医療、福祉など様々な課題が生じ、高齢者が安心して暮らすためには、地域家族会連合会等の協力を得ることが重要である。

(5) 協力組織の育成

本会は高齢化が進展するにつれて、介護、医療、福祉など様々な課題が生じ、高齢者が安心して暮らすためには、地域家族会連合会等の協力を得ることが重要である。

ア. 関係団体への協力援助

本会は高齢化が進展するにつれて、介護、医療、福祉など様々な課題が生じ、高齢者が安心して暮らすためには、地域家族会連合会等の協力を得ることが重要である。

イ. 地域家族会リーダー研修会

本会は高齢化が進展するにつれて、介護、医療、福祉など様々な課題が生じ、高齢者が安心して暮らすためには、地域家族会連合会等の協力を得ることが重要である。

ウ. ボランティア教室

本会は高齢化が進展するにつれて、介護、医療、福祉など様々な課題が生じ、高齢者が安心して暮らすためには、地域家族会連合会等の協力を得ることが重要である。

項目	内容
地域家族会連合会(会費)	〇
地域家族会連合会(会費)	〇
地域家族会連合会(会費)	〇
地域家族会連合会(会費)	〇

イ. 地域家族会連合会

本会は高齢化が進展するにつれて、介護、医療、福祉など様々な課題が生じ、高齢者が安心して暮らすためには、地域家族会連合会等の協力を得ることが重要である。

本会は高齢化が進展するにつれて、介護、医療、福祉など様々な課題が生じ、高齢者が安心して暮らすためには、地域家族会連合会等の協力を得ることが重要である。

本会は高齢化が進展するにつれて、介護、医療、福祉など様々な課題が生じ、高齢者が安心して暮らすためには、地域家族会連合会等の協力を得ることが重要である。

ア. 関係団体への協力援助

(ア) 三重県精神障害者家族連合会（三家連）

会員の高齢化が問題とされながらも、保健、医療、福祉等連携が強まる中、地域でのうけ皿づくりに向けて、熱心な取り組みがなされてきている。

平成4年度は、家族会の育成と共に、こうした関係領域の拡大と連携の強化を目指し、指導援助を行った。

援助回数は、次のとおりである。平成3年度より、年1回開催される三家連精神保健大会の企画、準備、作業を、事務局より委員会方式に切り換え、各関係機関の連携のもとに実施された。また、三家連誌“あゆみ”の編集等にも、編集委員として援助した。

三家連協力援助実施状況

平成元年～4年度

年 度	回 数 (回)
平成元年度	8
平成2年度	7
平成3年度	33
平成4年度	24

(イ) 精神障害者地域家族会

県内の地域家族会は、平成5年3月末、病院家族会が1か所増え3か所となり、地域家族会7か所が現在活動中である。

地域家族会への援助は、主に保健所にて開催される各家族会の定期総会への参加や、会独自で計画された研修への講師依頼が中心で、共同作業所づくりにむけての具体的な取り組みが進む中、情報提供等を含め、年々、協力援助の要請が増加してきている。

各地域家族会への指導援助は、次のとおりである。

精神障害者地域家族会への協力援助実施状況

年 度	回 数 (回)
平成元年度	8
平成2年度	4
平成3年度	15
平成4年度	15

また、地域家族会が運営主体となった共同作業所が、今年度、松阪、伊勢に各々新たに開設され、運営委員会をはじめとする協力、援助を今年度は12回実施した。

(ウ) アルコール関連組織（新酒会等）

三重新酒会は昭和47年に結成され、アルコール依存者の自助組織として独自の活動を行っている。県内には、6ブロック13支部で各々例会がもたれ、地域に根ざした活動が行われている。また「アルコール問題予防のためのネットワーク会議」が引き続き開催され、センターも世話人の1人として計画立案等に参画した。

平成4年度の協力援助実施状況は次のとおりである。

平成4年度アルコール関連組織協力援助実施状況

内 容	実施回数
アルコールネットワーク会議	5
アルコール問題連続講座	1
アルコール問題対策プロジェクト会議	3

イ. 地域家族会リーダー研修会

保健所単位の地域家族会の活動を推進するため、平成2年度より、この研修会を開催している。本年は、昨年家族会が結成されたふるさと会（伊勢保健所管内）と、再結成されたしぐれ会（桑名保健所管内）の2地域において、保健所の協力を得、家族会員と関係職員を対象に、同一テーマで研修会を開催した。

年 月 日	場 所	参加人員	研 修 内 容
平成4年 10月21日（水）	三重県桑名庁舎	69名	講演 テーマ 「精神障害者が地域で生活 するために」
平成4年 12月15日（火）	三重県伊勢庁舎	61名	講師 社団法人 やどかりの里 理事長 谷中 輝雄氏

ウ. 精神保健ボランティア教室

地域で生活する精神障害者への理解を深め、それを支援することを主な目的として、平成元年度より精神保健ボランティア教室を開催している。

平成4年度も、これらの活動の充実、拡大を図るため教室を開催した。

対象も従来どおり、一般住民を対象として、県下市町村の広報掲載を依頼し、公募したところ、定員の倍以上の応募があり、先着順に39名の方に決定通知を出し、32名の方が修了された。

教室の実施状況、受講者の状況、及び元年より3年までの教室修了者の活動状況は、次のとおりである。

精神保健ボランティア教室実施要領

1. 目 的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考えは、従来入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源について考えるなら、従来は医師、看護婦、ソーシャルワーカー、保健婦などの専門的な人々によって支えられてきたが、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居など）が、志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的を達しえない。むしろ、より広く、人的資源を求めていくことで、これを支え押しすすめていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を開催するものとする。

2. 主 催

三重県こころの健康センター

3. 日 時

平成4年8月6日（木）～平成4年11月19日（木）

毎月第1、3木曜日（13：30～15：30）

4. 会 場

三重県こころの健康センター

5. 対 象

精神保健及びボランティア活動に関心があり、受講後ボランティアとして活動する意志のある方及び受講を通して自己の心の健康づくりを図ろうとする方。

定員30名

6. 内 容

別紙1のとおり。

7. 費 用

受講料は無料とする。

8. 募集方法

別紙1の募集文を利用して公募する。

9. 申し込み方法及び期日

別紙1の募集文に添付されている申し込み用紙により申し込む。

締め切り7月15日（水）。ただし定員に達し次第締め切る。

別紙1

『精神保健ボランティア教室』のご案内

三重県こころの健康センター

今日、物質的に恵まれ生活そのものは豊かになったとはいえ、ますます複雑化する社会や人間関係の中で、学校や社会に適應できない人、心の悩みを持った人が増加しています。このような背景の中で、地域で生活している心の悩みを持った人々や回復途上の精神障害者を正しく理解して協力していただける方が求められています。

精神保健及びボランティア活動に関心があり、社会の一員として自分の持っている時間、技能、労力を人のために使ってみたいと感じている方、また、ご自身の“心の健康づくり”に役立たせたいと思われる方のために教室を開催します。どうか奮ってご参加ください。

記

1. 日 時 平成4年8月6日（木）～平成4年11月19日（木）
毎月1、3木曜日（13：30～15：30）
2. 場 所 三重県こころの健康センター
3. 内 容 右ページのプログラムをご覧ください
4. 対象人員 精神保健及びボランティア活動に関心のある方 30名
5. 申し込み 申込書に必要事項を記入の上申込先までお送りください
締め切りは 7月15日（水）
定員に達し次第締め切らせていただきます。

6. 申し込み先及びお問い合わせは

久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎1階

三重県こころの健康センター ☎0592-55-2151

平成4年度 精神保健ボランティア教室プログラム

	内 容 (13:30~15:30)	
8月6日(木)	(13:30~14:10) 開講式 オリエンテーション 自己紹介	(14:30~15:30) 講義「ライフサイクルと心の健康」 ①小児期 こころの健康センター臨床心理士 久保早百合
8月20日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」 ②思春期 小児心療センターあすなろ学園医長 西田 寿美	
9月3日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」 ③中年期 こころの健康センター所長・精神科医 原田 雅典	
9月17日(木)	講義「地域と生きがいー今、私に何ができるかー」 かやの木創房 代表 松浦 良代	
10月1日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」 ③老年期 三重大学医学部精神科助教授 井上 桂	
10月15日(木)	「施設見学」 社会福祉法人 四季の里(四日市市山田町836-1) スマイルハウス(援護寮) あおぞらワーク(通所授産施設)	
11月5日(木)	講義「精神保健ボランティアの経験から」 長野県精神保健ボランティアグループ 桐の会 今井 利江	
11月19日(木)	(13:30~14:30) 講義「地域における精神保健活動」 こころの健康センター 保健婦 河合加代子	(14:30~15:30) 反省会 ボランティアOBを交えて

※プログラムは変更することがありますのでご了承下さい。

受講者の状況

表1 年代別ボランティア経験の有無及び職業の有無

年代	区分 人数 (%)	ボランティア経験		有 職 者					専 業 主 婦	定 年 退 職	学 生
		有	無	公 務 員	団 体 職 員	パ ー ト	自 営 業	嘱 託			
20	2	1	1			1					1
30	7	2	5		3	1			3		
40	13	4	9	2	2	2	1	1	5		
50	10	4	6		4		2		4		
60	5		5		1		1		2	1	
計	37	11	26	2	10	4	4	1	14	1	1
%	100.0	29.7	70.3	5.4	27.0	10.8	10.8	2.7	37.9	2.7	2.7

受講者の年齢層は、20才代から60才代と幅広いが、40才代、50才あわせると全体の約8割を占めている。

表2 受講者の趣味、特技など（複数回答）

種 別	人 数	種 別	人 数	種 別	人 数
読 書	10	ダンス	2	水 墨 画	1
ス ポ ー ツ	4	カウンセリング	2	三 味 線	1
山 歩 き	3	映 画 鑑 賞	2	盆 裁	1
手 芸	3	油 絵	2	料 理	1
ス キ ー	3	手 品	1	水 泳	1
音 楽 鑑 賞	3	カ ラ オ ケ	1	緑 組	1
合 唱	3	短 歌	1	友 達 つ くり	1
バレーボール	2	演 劇 鑑 賞	1		

表3 受講者地域別（保健所管内別）

地 域	四日市	鈴 鹿	津	久 居	松 阪	伊 勢	上 野	志 摩	計
参加者数	3	8	5	12	2	2	4	1	37
%	8.1	21.6	13.5	32.5	5.4	5.4	10.8	2.7	100.0

精神保健ボランティア教室修了者の活動

教室修了者は、元年度、2年度共、各々クラス別の自主グループを結成し、OB会としてクラス独自の活動を大切にしながら、全体の行事等では協力し、連携して活動してきた。

3年度の修了者を迎え、更に活動が拡大される中で、クラス別のグループを発展解消し、1つのグループとして活動していこうという機運が高まり、平成4年10月22日、「三重でのひら」として第1回目の設立総会が開催された。

平成3年度末に広報係により編集が開始された機関紙「てのひら」は、平成4年4月1日より、毎月1回発行され、ボランティア間の意見交換、会の動き、センターよりの連絡やお願い、ミニ情報など、多数に盛り込まれ、遠隔地域で、センターに足を運ぶ機会が少ない会員のコミュニケーションにも一役買っている。

今年度の主な活動は、センター周辺である県内中勢地域に共同作業所を作ろうというもので、昨年からの課題をひきつぎ、それを更に実現に近づけるために積極的な活動が展開された。

○資金づくりとして

センター内作業の開始

年度当初より、作業開始の準備、話し合いが持たれ、平成4年11月より月2回（第2・第4金曜日）センター第一ダイルームにおいて、メンバーとボランティアにより作業が開始された。

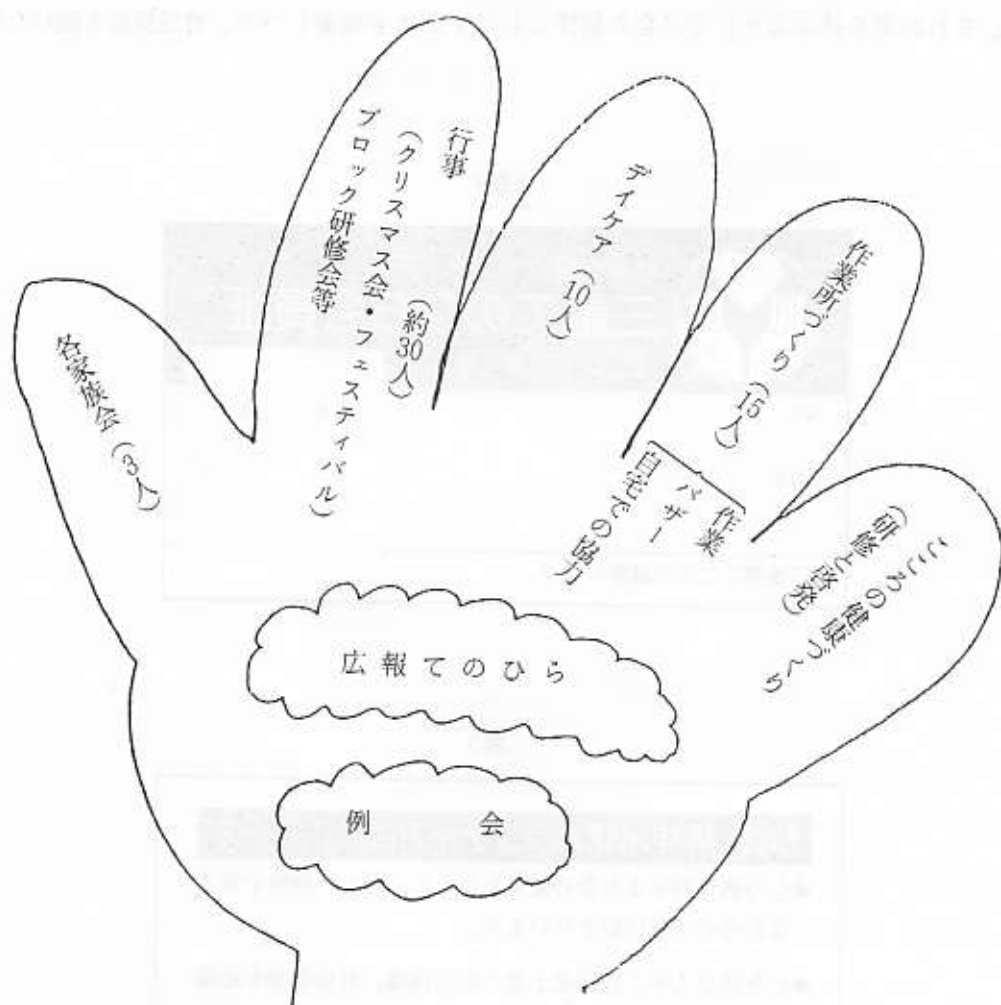
作業内容も、バザーで販売できるオリジナル製品やダイレクトメールの折り込み作業など、ボランティア自身が発案し、探してきたもので、オリジナル製品については独創性があり、バザー等でも大変好評であった。

○情報内容として

県外研修

- ・京都舞鶴作業所視察（平成4年8月）
- ・長野県精神保健ボランティアグループ桐の会活動の視察（平成4年12月）等、県外へも積極的に足を運び、情報収集をした。

〈三重でのひらの活動内容〉



今年度は、OB会が「三重でのひら」としてまとめ、ボランティアらしい自由な発想で主体的に活動が展開されてきている。

施設内の活動だけでなく、外の領域に協力を依頼していく際、精神保健ボランティア活動の趣旨を説明するものが、是非共必要だということで、会員証を作成した。顔写真を貼るかどうかという点で、賛否両論があったが、ボランティア活動を責任を持ってやっていくためには、顔写真は必要だという結論に達した。裏面には、協力者の理解を得るために、活動の趣旨を明記した。人の輪を多く持つボランティア個々の地域での努力をつなぎあわせ、それが実を結ぶよう、この会の個性としなやかさを尊重しつつ、育成援助を続けたい。

(表)

		精神保健ボランティア 三重でのひら会員証
NO.		写 真
NAME		
三重県こころの健康センター		

(裏)

私達 精神保健ボランティアは……………

- 心の病に対する社会の偏見をなくし、正しい理解を育てるための啓発活動を行います。
- 心を病む人や、回復途上者の社会復帰、社会参加を応援します。
- 社会の一員として自身の心の健康づくりをはかりながら、知恵と力を出し合い、心の健康づくり活動を進めます。

(6) 心の健康づくり推進

ア. こころの健康づくり教室

イ. こころの健康づくり推進連絡会議

ウ. 家族教室

近年の社会生活環境の複雑化に伴い、これらに適応するためのストレスが増大、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加している。

こころの健康センターでは、これら精神疾患に関する窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより、精神保健の保持を図る目的で次の三事業を実施した。

ア. こころの健康づくり教室

今年度のこころの健康づくり教室は、回復途上にある精神障害者の社会参加に向けての交流の場として、昨年に引き続き「こころの健康づくりフェスティバル」を開催した。

「こころの健康づくりフェスティバル」実施要領

1. 目 的

県内の社会復帰施設、共同作業所のメンバー、保健所、病院、こころの健康センター、デイケア等地域社会の中で生活し社会復帰をめざす人々が一堂に集まり、家族、ボランティア、各関係機関職員の参加のもとスポーツ、レクリエーションなどを通して交流、互いの理解を深め、精神障害者の社会復帰を図る。

2. 開催日時

平成4年9月26日(土) 午前10時30分～午後3時

3. 場 所

久居市総合体育館 久居市野村町877-1 ☎(0592) 55-6081

4. 主 催

こころの健康づくりフェスティバル実行委員会

こころの健康センター、デイケア実施保健所(四口市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、上野)、デイケア実施病院(国立療養所神原病院、松阪厚生病院)、わかば共同作業所、すずわの家共同作業所、社会復帰施設「四季の里」、三重県精神障害者家族連合会、地域家族会、精神保健ボランティアグループ

5. フェスティバル実行委員会の設置

フェスティバルの成果をより高めるために上記関係機関から実行委員を選出願い、実行委員会を開催しフェスティバルの具体的な内容、準備等について検討を行う。

6. プログラム

- ① 誰もが参加しやすいレクリエーション、スポーツ（運動会競技）をした内容で別途定める。
- ② 各施設、デイケア等の作品の展示を行う。

7. 広 報

- ① フェスティバルのポスターを作成、各関係機関に配付、案内するとともに参加を呼びかける。
- ② その他新聞等により広報活動を行う。

こころの健康づくりフェスティバルプログラム

期 日 平成4年9月26日（土）

場 所 久居市総合体育館 久居市野村町877-1 ☎ (0592) 55-6081

日 程 10:00 受付

25 集合（グループ別に集合、プラカードを先頭に入場行進）

30 開会式

開会宣言、実行委員長挨拶、来賓挨拶、競技の説明・注意事項
選手宣誓、ラジオ体操、退場

午前の部

10:45～11:05 ① 風船ゲーム 全員参加
(休憩 15分)

11:20～11:40 ② パン食い競争 (120) 個人競技

11:40～12:00 ③ ドッジボール (80) 団体競技

12:00 昼食・休憩

午後の部

1:00～1:20 ④ ウルトラクイズ 全員参加

1:20～1:40 ⑤ 障害物借り物競争 (60) 個人競技
(休憩 30分)

2:10～2:30 ⑥ 追っかけ玉入れ (80) 団体競技

2 : 30 ~ 2 : 45 ⑦ ジャンケンゲーム

全員参加

2 : 45 閉会式

成績発表、講評、閉会宣言

3 : 00 終了

1. 参加者を2班に分け、紅白戦とする
2. 作品等の搬入は、当日8時30分から
3. 当日持参するもの

 プラカード（団体）

 個人が持参するもの…弁当・水筒・上履き（体育館シューズか上で漬かる運動靴）

 ・ゴミ袋

昨年と同様、実行委員会形式で運営することとなり2回の実行委員会を開催した。今年度は、デイケア実施病院にも参加を呼びかけ、2ヶ所の病院が参加する運びとなった。また、会場は参加者数の増加が予想され、久居市総合体育館へ変更した。

フェスティバルの当日は天候にも恵まれ、約250名の参加があり、昨年にも増して盛会のうちに無事終了した。

なお、当日、参加された方にハガキによるアンケート調査を実施した。

（内容、結果等については、調査研究事業に掲載）



こころの健康づくりフェスティバル ポスター

イ. こころの健康づくり推進連絡会議

4年度のこころの健康づくり推進連絡会議は、産業精神保健部会を設置し、職域における精神保健の現状と課題について検討を行うと共に各関係機関相互の理解と役割を明確にし、さらに連携を密にすることにより精神保健活動の充実を図った。

こころの健康づくり推進連絡会議実施要領

1. 目的

近年社会生活の複雑、多様化にともないストレスが増大しノイローゼ、鬱病等精神疾患が増加していることにかんがみ、これら精神疾患に関する現在の問題を明確にし、今後の展望を考慮するとともに精神保健に関する知識の普及等をおこなうことにより精神的健康の保持増進をはかる。

2. 実施主体

三重県こころの健康センター

3. 産業精神保健部会の設置

上記の目的のために、連絡会議に産業精神保健部会を設置し、職域における精神保健の現状と課題について検討すると共に各関係機関相互の理解をふかめその役割を明確にし、さらに連携を密にすることにより精神保健活動の充実を図る。

4. 協議事項

- ア. 関係機関の情報交換、現状と問題点
- イ. 事例検討会、講演会。
- ウ. 関係機関等の協力体制の整備、調整に関すること。

5. 構成メンバー

事業所保健婦、看護婦
こころの健康センター職員

6. 実施時期

- 第1回 平成4年8月11日(火) PM1時30分～3時30分
- 第2回 平成5年3月18日(木) PM1時30分～3時30分

7. 場 所

三重県こころの健康センター第1 デイルーム及び三重県久居庁舎第22会議室

◎第1回

日 時 平成4年8月11日（火）

- 議 題 ① 会議（産業精神保健部会）の主旨説明
② こころの健康センターの概況について
③ 各職場におけるメンタルヘルスへの取り組みについて

出席者 17名

内 容

11事業所より14名の保健婦、看護婦が出席、各職場で看護職としてのメンタルヘルスへの取り組みについて情報交換を行った。

取り組みを職場として実施している事業所、全く出来ていない事業所等まちまちで企業により格差があった。また、看護婦へのスーパーバイザーとしての役割をセンターに期待したいとの意見が出された。

◎第2回

日 時 平成5年3月18日（木）

- 議 題 ① 講義

「職場における心の病」

講師

こころの健康センター所長 原田 雅典

- ② 事例相談

職場におけるケースについて相談

出席者 24名

内 容

講義は、いくつかの事例を通しての内容で、具体的で非常にわかり易かったと出席者の声があった。講義のあと、質問の時間をとり、職場での相談事例への対応について質問が多く出された。

ウ. 家族教室

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に、現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とするがゆえにさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現われ、マスコミを始めとし社会的な関心が高まっている。よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものも変わりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の家族教室は、中勢地区14校の高校の保護者と教育相談を担当している教諭を対象として、思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

付表に示すような講演会と個別相談を行った。

(ア) 家族教室の概要

(付 表)

a 目 的

思春期の心の問題をもつ家族、関係者に対して、子どもを支えるための知識や理解を深める。

b 対象者

中勢高の生徒の保護者と教諭

c 内 容

講演「思春期と家族」

講師 松阪女子短期大学教授 長澤 哲史先生

個別相談

d 日 時

平成4年11月21日(土) 午後2時～午後5時30分

e 場 所

三重県教育文化会館 第2会議室

(イ) 講演の概略

現代の家族を象徴するとみられる高校教師の息子殺害事件を糸口にしながら、日本の家族のかかえる問題の分析をされた。病める家族がもつ内容としては、父親なき社会、家庭内離婚・家庭内別居、そしてファミコンを恋人としている現代青年の姿まで含めた家庭内の問題を取りあげられた。この解決策として『創造的家族』の概念を紹介され家族相互問題における人間関係の再訓練、つまり家族そのものをカウンセリング集団におきかえるといった新しい概念の提案をされた。また最後に「アメリカインディアンの教え」を紹介された（付表参照）。

子どもたちはこうして生き方を学びます	アメリカインディアンの教え
批判ばかり受けて育った子は 非難ばかりします	敵意にみちた中で育った子は 誰とでも戦います
ひやかしを受けて育った子は はにかみ屋になります	ねたみをうけて育った子は いつも悪い事をしている ような気持ちになります
心が寛大な人の中で育った子は がまん強くなります	はげましを受けて育った子は 自信を持ちます
ほめられる中で育った子は いつも感謝することを知ります	公明正大な中で育った子は 正義心を持ちます
思いやりのある中で育った子は 信仰心を持ちます	人に認めてもらえる中で 育った子は自分を 大事にします
仲間の愛の中で育った子は 世界に愛をみつけます	
作：ドロシー・ロー・ノルト 訳：吉永 宏	
(加藤浩三：「アメリカインディアンの教え」……1999年：ニッポン放送出版)	

(ウ) 個別相談

個別相談には4件の相談があり、内訳は全て不登校に関係する問題であった。また、相談者の内訳は、父親1名、母親3名であった。相談の具体的な内容は不登校に関するものであったが、そのうちの2名は、どこにも相談機関にかかっていない事例であり、不登校の問題の難しさを知るとともに、あらゆる機会をとおして不登校をはじめとする思春期問題の広報啓発の必要性を感じた。

(7) 精神保健相談

精神保健相談は、精神障害のある方やそのご家族の方、あるいは周囲の方から相談を受け、その悩みや苦しみについて、専門的な知識や経験に基づいて、適切なアドバイスや支援を行うことです。

相談の対象となる悩みや苦しみとしては、以下のようなものが挙げられます。

① 精神障害の診断や治療に関する悩み
 ② 日常生活での困りごとや苦しみ
 ③ 家族や周囲の方との関係に関する悩み
 ④ 仕事や学校での悩み
 ⑤ 生活リズムの乱れや睡眠障害に関する悩み

相談を受ける際には、相談者のプライバシーを厳格に守り、安心して相談できるように努めます。また、相談者のニーズや状況に応じて、適切な支援や紹介を行うことが重要です。

精神保健相談は、精神障害のある方やそのご家族の方にとって、大切なサポートの一つです。ぜひお気軽にご相談ください。

図 1 精神保健相談のフローチャート



精神保健相談は、精神障害のある方やそのご家族の方にとって、大切なサポートの一つです。ぜひお気軽にご相談ください。

精神保健相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレホン相談」（電話相談）に分けられる。

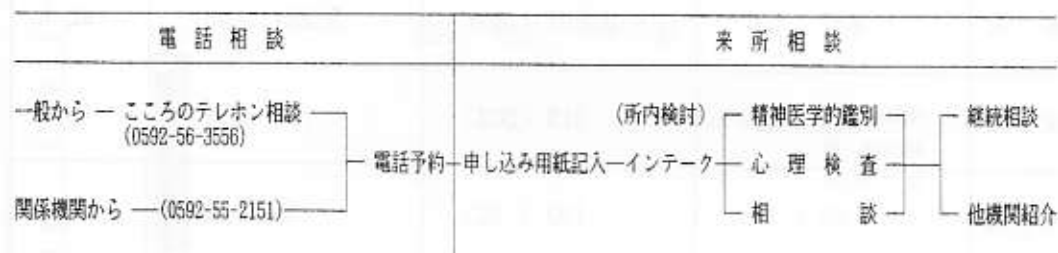
「こころの健康相談」は、思春期・老年期・酒害・ダイエットSOSのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成4年度の相談員は、医師2名（所長、非常勤医師1名）、保健婦（精神保健相談員）2名、精神科ソーシャルワーカー1名、心理技術者1名の計6名である。

「こころのテレホン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後4時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）2名が当たっている。

また、時間外については、留守録を利用し、必要な場合には、翌日センターから連絡をとる体制にしている。

相談の流れは、図1に示してある。この基本的な考え方は、所内でそれぞれ専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図1. 相談の流れ



平成4年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数（表1・表2）をみると、来所相談が前年度比155%、電話相談が109%であり、相談件数は117%とやや増加している。内容的にみると、前年度同様に、来所相談の増加と継続相談の件数が増えたことが特徴となっている。

表1. 平成4年度相談件数

()内の新規件数

		件数	構成比 %
こころの健康相談		903(115)	23.1
こころの テレフォン相談		3,013(474)	76.9
再 掲	思春期	580(170)	14.8
	老年期	64(40)	1.6
	酒害	4(4)	0.1
計		3,916(589)	100.0

表2. 平成3年度相談件数

()内の新規件数

		件数	構成比 %
こころの健康相談		581(77)	17.3
こころの テレフォン相談		2,722(320)	82.7
再 掲	思春期	421(119)	12.6
	老年期	31(25)	0.9
	酒害	13(12)	0.4
計		3,353(397)	100.0

表3. 相談者別件数

()内は新規件数

	こころの 健康相談	こころの テレフォン相談	計	% 構成比
本人	637 (54)	2,597 (239)	3,234 (293)	82.6
家族	216 (51)	313 (203)	529 (254)	13.5
その他	50 (10)	103 (32)	153 (42)	3.9
計	903 (115)	3,013 (474)	3,916 (589)	100.0

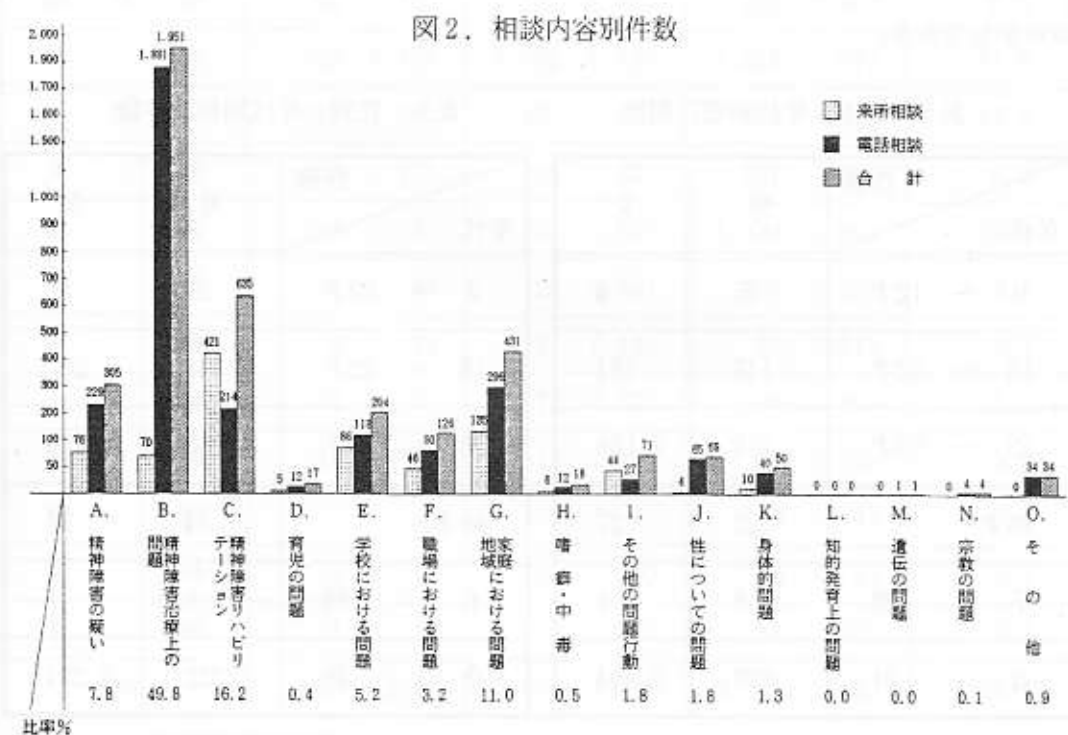
相談者別件数(表3)については、前年度同様、やや本人からの相談が減り、家族、その他の方からの相談がやや増加している傾向にある。しかし、本人からの相談も115%と前年度と比べてやや増加しているが、それ以上に家族からの相談が124%、その他が140%となっており、件数からみるとかなり増加している。

ところで、年々増加の一途をたどっている来所相談は、平成元年度の332%であり、昨年度のほぼ155%となっており、やはり継続相談の増加が来所相談の多さとなっている。

相談内容別件数は、図2に示してある。全体を大きく分けると精神障害に関したもの（精神障害の疑い、精神障害治療上の問題、精神障害リハビリテーション）と適応障害に分けることができる。精神障害に関したものは全体の73.8%となっており、その中でも治療上の問題が49.8%、リハビリテーションが16.2%となっている。昨年度にひきつづき、本人からの相談件数が急激に増加していることを考え合わせると、精神科治療だけではなく、精神障害に対する不安は減っていないと思われる。

適応障害の中では、地域・家庭における問題、そして学校における問題が、それぞれ11.0%、5.2%と他の適応障害の中では群をぬいている。また職場における問題は3番目に多く、3.2%もある。昨年度の1.8%と比べると、ほぼ2倍弱の増加である。このような傾向が昨年度よりひき続いてみられることは、現代社会における地域及び家庭、そして学校や職場での機能が低下していることをうかがわせ興味深い。なかでも職場における問題が増加したことは、最も興味深いところである。

今年度、その他の適応障害では、昨年増加した来所相談での性についての問題が半分減っていることは興味深い現象である。



次に、表4に示されている性別、年代別件数についてみると、来所相談では男性が女性よりも多く2倍となっている。年代では圧倒的に成人が多く、次に思春期が多い。また昨年度は、成人において男性・女性の差がなくなっていたが、今年度は再び男性が多く約1.7倍と増加したことが注目される。

次に、表5に示すように電話相談について、同じく性別、年代別にみると、女性が男性の約4倍近くの相談件数を示していることは、昨年度と変わらない。しかし、昨年度からみれば成人の年代で男性と女性の差が6倍から4倍へと減っている。それ以外の年代では昨年度と傾向が変わらない。

性別、年代別相談件数の合計については表6に示してある。

表4. 性別、年代別来所相談

年代	性別	
	男	女
0 ~ 12才	6	5
13 ~ 22才	200	48
23 ~ 59才	395	234
60才~	12	3
不 明	0	0
合 計	613	290

表5. 性別、年代別電話相談

年代	性別	
	男	女
0 ~ 12才	15	6
13 ~ 22才	148	184
23 ~ 59才	418	2,186
60才~	22	27
不 明	6	1
合 計	609	2,404

表6. 性別、年代別相談件数

年代	性別	
	男	女
0 ~ 12才	21	11
13 ~ 22才	348	232
23 ~ 59才	813	2,420
60才~	34	30
不 明	6	1
合 計	1,222	2,294

次に保健所管内別相談件数が表7に示してあるが、米所相談では津、松阪、久居、鈴鹿とつづき、昨年度と比べれば、久居、鈴鹿の順序が逆転している。またこの4保健所で全体のほぼ75%をしめている。しかし、昨年度は3保健所で全体の80%を占めていたことから考えると、管内にバラついてきたように思われる。昨年度から地域的な要因が、少しではあるが緩和されてきたようである。

なお新規件数に目をむけると、米所相談と電話相談を合わせてみると、津管内が最も多く、次に四日市管内、久居管内、鈴鹿管内と続いている。四日市管内を除き他4管内は差がなく、当センターの利用も広範囲になされている。この傾向は広報によるものが大きいのかも知れない。

表7. 保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころの テレフォン相談	計	構成比 %
桑名	2 (1)	32 (28)	34 (29)	0.9
四日市	85 (16)	127 (81)	212 (97)	5.4
鈴鹿	128 (18)	1,088 (49)	1,216 (67)	31.0
津	211 (29)	487 (92)	698 (121)	17.8
久居	157 (17)	164 (53)	321 (70)	8.2
松阪	183 (8)	851 (52)	1,034 (60)	26.4
伊勢	37 (9)	122 (36)	159 (45)	4.1
志摩	6 (5)	21 (16)	27 (21)	0.7
上野	72 (8)	72 (32)	144 (40)	3.7
尾鷲	16 (1)	14 (11)	30 (12)	0.8
熊野	-	6 (4)	6 (4)	0.1
県外	1 (1)	14 (6)	19 (8)	0.5
不明	1 (1)	15 (14)	16 (15)	0.4
計	903 (115)	3,013 (474)	3,916 (589)	100.0

※ () は新規件数で内数

特定専門相談

(ア) 思春期相談

表8に内容別相談件数が示されているが、この表では中学生から大学卒業までの年齢を考えている。来所相談は248件あり、全体の27.5%を示している。全体の相談件数の23.1%と比べると、やや高くなっている。内容的には来所相談においては昨年度と比べて、精神障害者リハビリテーションが最も高く、次に学校における問題が増加している。このことは、このような問題を気軽に相談できる場として、定着してきたことと、教育関係にも当センターの役割をわかってもらえたことによるところも大きいと思われる。全体的にみても、学校における問題が他の相談に比べて圧倒的に多く、思春期の子どものもつ悩みを表わしている。

(イ) 老年期相談

60才以上のいわゆる老年期の相談は、今年度は64件であり、全体の1.6%となり、昨年の0.9%を上回っている。内容的には、家庭（地域）における問題が50%を占め、次に精神障害者の疑い（21.9%）となっている。昨年度10件もあった精神障害者治療上の問題が4件と少なく全体の6.2%にとどまっていることは興味深いところである。

(ウ) 酒害相談

酒害相談は表10に示すように4件と少なく、昨年度の13件と比べると1/3と少なくなっている。これには、アルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、保健所への酒害ケースへのコンサルテーションの増加等から、直接、当センターへ相談がもち込まれることがますます少なくなったと思われる。

表8. 思春期内容別相談件数

	来 所 相 談 (%)	テレフオン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	248 (100.0)	332 (100.0)	580 (100.0)
A 精 神 障 害 の 疑 い	9 (3.6)	24 (7.2)	33 (5.7)
B 精 神 障 害 治 療 上 の 問 題	7 (2.8)	33 (10.0)	40 (6.9)
C 精 神 障 害 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	108 (43.6)	13 (3.9)	121 (20.9)
D 育 児 の 問 題	1 (0.4)	1 (0.3)	2 (0.3)
E 学 校 に お け る 問 題	78 (31.5)	116 (35.0)	194 (33.4)
F 職 場 に お け る 問 題	4 (1.6)	28 (8.4)	32 (5.5)
G 家 庭 に お け る 問 題	35 (14.1)	52 (15.7)	87 (15.0)
H 嗜 癖 ・ 中 毒	1 (0.4)	5 (1.5)	6 (1.0)
I そ の 他 の 問 題 行 動	5 (2.0)	10 (3.0)	15 (2.6)
J 性 に つ い て の 問 題		32 (9.6)	32 (5.5)
K 身 体 的 問 題		12 (3.6)	12 (2.1)
L 知 的 発 育 上 の 問 題			
M 遺 伝 の 問 題		1 (0.3)	1 (0.2)
N 宗 教 の 問 題		1 (0.3)	1 (0.2)
O そ の 他		4 (1.2)	4 (0.7)

表9. 老年期相談内容別件数

	来 所 相 談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 数	15 (100.0)	49 (100.0)	64 (100.0)
A 精 神 障 害 の 疑 い	2 (13.3)	12 (24.5)	14 (21.9)
B 精神障害治療上の問題		4 (8.2)	4 (6.2)
G 家庭(地域)における問題	13 (86.7)	19 (38.8)	32 (50.0)
H 嗜 癖 ・ 中 毒		3 (6.1)	3 (4.7)
K 身 体 的 問 題		6 (12.2)	6 (9.4)
O そ の 他		5 (10.2)	5 (7.8)

表10. 酒害相談者別件数

相 談 者	件 数
本 人	
家 族	4
そ の 他	
計	4

Ⅲ. こころの健康センター図書目録

冊数	書名	著者	発行年
1	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
2	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
3	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
4	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
5	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
6	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
7	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
8	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
9	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
10	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
11	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
12	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
13	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
14	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
15	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
16	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
17	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
18	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
19	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
20	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
21	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
22	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
23	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
24	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
25	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
26	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
27	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
28	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
29	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008
30	うつ病の診断と治療	山本 浩一	2008

三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤 喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤 学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋 薫 編	星和書店
4	アルコール症 (J. フォート著)	大森 正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元 波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井 孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島 美都子 著	ミネルウヰ書房
8	岩波国語辞典	西尾 実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子 (J. A. L. ジング著)	中野 善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合 隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合 隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下 格 著	金剛出版
13	仮面アプレッションのすべて	筒井 末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉 (厚生行政百問百答)	厚生 省 監 修	厚生問題研究会
15	現代精神分析 1	小比木 啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析 2	小比木 啓吾 著	誠信書房
17	講座 家族精神医学 1	加藤 正明 共編	弘文堂
18	講座 家族精神医学 2	加藤 正明 共編	弘文堂
19	講座 家族精神医学 3	加藤 正明 共編	弘文堂
20	講座 家族精神医学 4	加藤 正明 共編	弘文堂
21	講座 日本の老人 1 老人の精神医学と心理学	金子 仁郎 共編	垣内出版
22	講座 日本の老人 2 老人の福祉と社会保障	岡村 重雄 共編	垣内出版
23	講座 日本の老人 3 老人と家族の社会学	那須 宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村 護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木 隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者 (R. D. レイン著)	志貴 春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生 省 監 修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本 和雄 共著	日本文化科学社

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
29	児童の発達と行動	加藤正明 共訳	医学書院
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫 著	医学書院
31	社会精神医学の実際 1	加藤伸勝 編	医学書院
32	社会精神医学の実際 2	佐藤亮三 編	医学書院
33	社会精神医学の実際 3	逸見武光 編	医学書院
34	社会精神医学の実際 4	加藤伸勝 編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義 編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ 6 小児のMBD	上村菊朗 共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ 7 登校拒否症	若林真一郎 著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ 8 小児のてんかん	福山幸夫 著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ 13 小児の糖尿病	山中美郷 著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ 14 自閉症	村田豊久 著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ 15 小児の心身症	河野友信 著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ 20 夜尿症	三好邦雄 著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋 共編	医学書院
44	事例検討と看護実践	外口玉子 編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子 編	パオパブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法(法令、通知、資料)	厚生省 監修	中央法規出版
48	心理療法の実践	河合隼雄 編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司 著	医学書院
50	睡眠障害	上山英雄 編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良 共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典		メディカルビュー
53	増補版 精神医学辞典	加藤正明 共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭 編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫 著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫 共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫 共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫 共編	医学書院

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
59	精神衛生のための100か条	中 沢 正 夫 著	創 造 出 版
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉 川 武 彦 著	医学図書出版
63	精神科のハーブウェイハウス	加 藤 正 明 著	星 和 書 店
64	精神科 MOOK 3 覚せい剤・有機溶剤中毒	加 藤 伸 勝 著	金 原 出 版
65	精神科 MOOK 4 境界例	保 崎 秀 夫 著	金 原 出 版
66	精神科 MOOK 6 思春期の危機	下 坂 幸 三 著	金 原 出 版
67	精神科 MOOK 8 老人期痴呆	長谷川 和 夫 著	金 原 出 版
68	精神疾患ケース・スタディ	森 温 理 著	医 学 書 院
69	精神疾患と心理学	神 谷 美 恵 子 著	み ず ず 書 房
70	精神障害者との出会い	加 藤 伸 勝 編	医 学 書 院
71	精神障害者のディケア	加 藤 正 明 共 編	医 学 書 院
72	精神分析用語辞典	村 上 仁 監 訳	み ず ず 書 房
73	精神分析セミナー I 精神療法の基礎	小比木 啓 吾 共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー II 精神分析の治療機序	小比木 啓 吾 共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー III フロイトの治療技法論	小比木 啓 吾 共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー V 発達とライフサイクルの視点	小比木 啓 吾 共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂 矢 英 彦 著	金 剛 出 版
78	青年期境界例の治療	成 田 善 弘 共 訳	金 剛 出 版
79	側頭葉てんかん	宇 野 正 威 著	星 和 書 店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人 見 一 彦 著	金 剛 出 版
81	てんかん診療の実際	福 山 幸 雄 監 訳	医 学 書 院
82	断酒学	村 田 忠 良 著	星 和 書 店
83	地域精神衛生の理論と実際	加 藤 正 明 監 修	医 学 書 院
84	日本の中高年 1 (上) 中高年健康管理学	篠 野 脩 一 編	垣 内 出 版
85	日本の中高年 1 (下) 中高年健康管理学	篠 野 脩 一 編	垣 内 出 版
86	日本の中高年 2 中高年女性学	篠 野 脩 一 編	垣 内 出 版
87	日本の中高年 3 収穫の世代	袖 井 孝 子 編	垣 内 出 版
88	日本の中高年 4 老人のプロセスと精神障害	戸 川 行 男 共 編	垣 内 出 版

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
89	日本の中高年 5 中高年にみる生活危機	本村 汎 共編	垣内出版
90	日本の中高年 6 病める老人を地域でみる	前田 信雄 著	垣内出版
91	ニュー セックス セラピー	野末 源一 訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上 英二 編	講談社
93	方法としての事例検討	外口 玉子 著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上 和雄 共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木 浩二 訳	誠信書房
96	ボウルビィ母子関係入門	作田 勉 訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村 恒郎 著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原 健志郎 編	中央法規出版
99	森田正馬全集 1	森田 正馬 著	白揚社
100	森田正馬全集 2	森田 正馬 著	白揚社
101	森田正馬全集 3	森田 正馬 著	白揚社
102	ユキの日記	笠原 嘉 編	みすず書房
103	病むということ	江畑 啓介 訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川 中 共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中 淑彦 共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口 玉子 編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田 豊治 著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川 和夫 共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田 晋 著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎 俊久 編	医学書院
111	老人ほけの理解と援助	三宅 貴夫 編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏 君士 著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川 和夫 著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤 伸勝 監訳	医学書院

63年度以降購入分

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
1	現代精神医学大系 1 A 精神医学総論 I		中山書店
2	現代精神医学大系 1 B 1 a 精神医学総論 II a 1		中山書店
3	現代精神医学大系 1 B 1 b 精神医学総論 II a 2		中山書店
4	現代精神医学大系 1 B 2 精神医学総論 II b		中山書店
5	現代精神医学大系 1 C 精神医学総論 III		中山書店
6	現代精神医学大系 2 A 精神疾患の成因 I		中山書店
7	現代精神医学大系 2 B 精神疾患の成因 II		中山書店
8	現代精神医学大系 2 C 精神疾患の成因 III		中山書店
9	現代精神医学大系 3 A 精神症状学 I		中山書店
10	現代精神医学大系 3 B 精神症状学 II		中山書店
11	現代精神医学大系 4 A 1 精神科診断学 I a		中山書店
12	現代精神医学大系 4 A 2 精神科診断学 I b		中山書店
13	現代精神医学大系 4 B 精神科診断学 II		中山書店
14	現代精神医学大系 5 A 精神科治療学 I		中山書店
15	現代精神医学大系 5 B 精神科治療学 II		中山書店
16	現代精神医学大系 5 C 精神科治療学 III		中山書店
17	現代精神医学大系 6 A 精神症と心因反応 I		中山書店
18	現代精神医学大系 6 B 精神症と心因反応 II		中山書店
19	現代精神医学大系 8 人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系 9 A 躁うつ病 I		中山書店
21	現代精神医学大系 9 B 躁うつ病 II		中山書店
22	現代精神医学大系 10 A 1 精神分裂病 I a		中山書店
23	現代精神医学大系 10 A 2 精神分裂病 I b		中山書店
24	現代精神医学大系 10 B 精神分裂病 II		中山書店
25	現代精神医学大系 12 境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系 15 A 薬物依存と中毒 I		中山書店
27	現代精神医学大系 15 B 薬物依存と中毒 II		中山書店
28	現代精神医学大系 18 老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系 23 A 社会精神医学と精神衛生 I		中山書店
30	現代精神医学大系 23 B 社会精神医学と精神衛生 II		中山書店

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
31	現代精神医学大系 23C 社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系 24 司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系 25 文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門(正統)	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小比木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小比木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小比木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレベリンの精神医学1巻 精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレベリンの精神医学2巻 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレベリンの精神医学3巻 心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理 1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理 2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理 3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理 4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理 5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児(者)の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1、子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3、発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7、発達の保障と教育		岩波書店
60	分裂病の精神病理 4	萩野恒一編	東京大学出版会

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
61	青年の精神病理 1	笠原嘉・清水将之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理 2	小比木 啓 吾 編	弘文堂
63	青年の精神病理 3	清水将之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座 生活ストレスを考える 1. 生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座 生活ストレスを考える 2. 生活環境とストレス	山本和郎 編	垣内出版
66	講座 生活ストレスを考える 3. 家庭生活とストレス	石原邦雄 編	垣内出版
67	講座 生活ストレスを考える 4. 職場集団にみるストレス	坂本 弘 編	垣内出版
68	講座 生活ストレスを考える 5. 学校社会のストレス	安藤延男 編	垣内出版
69	メラニー・クライン著作集1. 子どもの心的発達	責任編集・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニー・クライン著作集3. 愛、罰そして償い	責任編集・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニー・クライン著作集4. 妄想的・分裂的世界	責任編集・小比木啓吾・岩崎徹也	誠信書房
72	メラニー・クライン著作集6. 児童分析の記録1	山上千鶴子 訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見 上	フロイト著・林雄・中野良平訳	弘文堂
75	無意識の発見 下	フロイト著・林雄・中野良平訳	弘文堂
76	新しい子ども学 3巻 1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学 3巻 2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学 3巻 3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイト著作集 1 児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイト著作集 2 自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイト著作集 3 家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子 訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイト著作集 4 家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子 訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイト著作集 5 児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイト著作集 6 児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイト著作集 7 ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・阪本良男・児玉憲典訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイト著作集 8 ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・阪本良男・児玉憲典訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイト著作集 9 児童病の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイト著作集 10 児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻洋子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学 2 パーソナリティ		岩波書店
90	異常心理学講座4巻 1 学派と方法	土居健郎・笠原嘉・宮本勉・責任編集	みすず書房

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
91	異常心理学講座 3 人間の生涯と心理	土居健郎・笠原謙・宮村謙・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座 4 神経症と精神病1	土居健郎・笠原謙・宮村謙・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座 5 神経症と精神病2	土居健郎・笠原謙・宮村謙・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集 1 精神病理学研究	井村恒郎著	みすず書房
95	井村恒郎著作集 2 脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集 3 分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・塚弘監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎著	金剛出版
99	叢書・精神の科学 1 巻精神の幾何学	安永浩著	岩波書店
100	叢書・精神の科学 2 巻シンファンの病い	小出浩之著	岩波書店
101	叢書・精神の科学 4 治療の場からみた分裂病	坂本暢典著	岩波書店
102	叢書・精神の科学 5 正気の発見	内沼幸雄著	岩波書店
103	叢書・精神の科学 6 心身症と心身医学	成田善弘著	岩波書店
104	叢書・精神の科学 7 意識障害の人間学	河合逸雄著	岩波書店
105	叢書・精神の科学 8 境界現象と精神医学	鈴木茂著	岩波書店
106	叢書・精神の科学 10 精神と身体	遠藤みどり著	岩波書店
107	叢書・精神の科学 11 脳と言語	野上芳美著	岩波書店
108	叢書・精神の科学 12 貧困の精神病理	大平健著	岩波書店
109	叢書・精神の科学 13 「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治編	誠信書房
112	生きること かかわること	村上英治監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論（フェッバーン著）	山口泰司訳	文化書房博文社
114	臨床的对象関係論（フェッバーン著）	山口泰司・原田千恵子訳	文化書房博文社
115	性的例錯（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫訳	みすず書房
116	性の逸脱（ストー著）	山口泰司訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニエット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剝奪	ウイニエット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
119	描画による心の診断	岩井寛著	日本文化科学社
120	家族療法（ジェイ・ヘイリィ著）	佐藤悦子訳	川島書店

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
121	大塚家族療法1 (Dグリック D・Rケスラー著)	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニティ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巖・荒井元博編	ミネルウヰ書房
126	日常性の精神医学 (ヴァン・デン・ベルグ著)	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋 絳 治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学 (P・シルダー著)	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄監訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健室監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでも精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1 母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2 父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3 エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4 攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5 夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6 創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7 病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9 子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10 青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
150	日本人の深層分析11 老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー 生きられる時間 1	中江育生・清水誠 訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー 生きられる時間 2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー 精神分裂病	村上仁 訳	みすず書房
159	異常心理学講座 第9巻	上野健策・高原基・宮本忠雄・木村敏彦編	みすず書房
160	E.クレペリン〈精神医学〉2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修 加藤伸勝	医学書院
165	PS.Powers.RC.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編 ハンドブックグループワーク	馬場禮子 監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園昌久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司 編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売、星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎監修	日本集団精神療法学会 発売、星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー 裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット 子どもと家庭	牛島定信 監訳	誠信書房
174	医心理学	原田一・小川寛・高沢千尋・関信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子 編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルナウエンス インターナショナル
178	生活と福祉 別冊事例集 アルコール依存症 および精神障害特集		全国社会福祉協議会
179	バトグラフィ双書3 宮沢賢治	福島章	金剛出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
180	バトグラフィ双書6 ドフトエフスキー	萩野恒一	金剛出版
181	バトグラフィ双書8 ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	バトグラフィ双書9 志賀直哉	鹿野達男	〃
183	バトグラフィ双書10 川端康成	稲村博	〃
184	バトグラフィ双書12 高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK 2 家族精神医学	編集企画 西園昌久	金原出版
186	〃 5 アルコール関連障害	〃 加藤正明	〃
187	〃 9 精神分裂病の治療と予後	〃 山下格	〃
188	〃 11 身体疾患と精神障害	〃 原田憲一	〃
189	〃 12 対人恐怖症	〃 高橋徹	〃
190	〃 13 躁うつ病の治療と予後	〃 更井啓介	〃
191	〃 14 青少年の社会病理	〃 藤原豪	〃
192	〃 15 精神療法の実際	〃 吉松和哉	〃
193	〃 16 自殺	〃 春原千秋	〃
194	〃 17 法と精神医療	〃 逸見武光	〃
195	〃 18 家庭と学校の精神衛生	〃 山田通夫	〃
196	〃 19 森田療法—理論と実際	〃 大原健士郎	〃
197	〃 20 精神科救急医療	〃 山崎敏雄	〃
198	〃 21 睡眠の病態	〃 菱川泰夫	〃
199	ヤスバース精神病理学研究	藤森英之 訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆 編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川藤一郎	〃
207	C.M. アンダーソン・D.J. レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
208	C.M. アンダーソン・D.J. レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子監訳	〃
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
210	DSM-Ⅲ-R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤嶋昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・鳥弘嗣共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南岳与志郎編	〃
215	③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	〃
216	④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	〃
217	⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明監・村田信男・藤井文雄編	〃
218	⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	〃
219	⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	〃
220	⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	〃
221	⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	〃
222	⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	〃
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	〃
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木明	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斎三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 I 描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 II 家族画による診断と治療	〃	金剛出版
232	臨床描画研究 III 思春期、青年期の病理と描画	〃	金剛出版
233	臨床描画研究 IV 描画の臨床的活用	〃	金剛出版
234	臨床描画研究 V イメージと臨床	〃	金剛出版
235	臨床描画研究Annex 1 家族イメージとその投影	〃	金剛出版
236	②私の表現病理学	〃	金剛出版
237	③描画を読むための理論背景	〃	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社
239	精神障害者福祉	田村健二・岸上宏・浜田晋・岡上和雄	相川書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
240	過食の病理と治療	下坂幸三 編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である H.S. ナリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敏三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出 J.レフ C.ヴァーン著	三野善央、牛島定信 訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子 監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一 監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際 I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際 II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開 ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子 訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野 裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水将之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2 登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	土居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望(青年期)	鎌神八郎、山本力、宮下博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松島信男、野中延	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保絃章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保絃章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ GR. パターソン	大淵憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補 精神発達と精神病理	北田権之助、馬淵謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田 眞	医学書院
264	医学モデルを超えて E.G. ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4 強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期 美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談	財団法人公衆衛生協会
269	人と場をつなぐケア	外口玉子	医学書院

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
270	精神分裂病研究の進歩	藤 繩 昭	星 和 書 店
271	「家族」と治療する	石 川 元	未 来 社
272	初期分裂病	中 安 信 夫	星 和 書 店
273	自己愛と境界例 J. F. マスターソン著	富山幸佑、尾崎新 訳	星 和 書 店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術 L. S. グリックマン著	荒木志朗、柴田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高 木 四 郎	慶 応 通 信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木 時 雄	弘 文 堂
278	新版 精神衛生	小杉正太郎 編著	川 島 書 店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会 編	保 健 同 人 社
280	メンタルヘルス	加 藤 正 明	創 元 社
281	ライフサイクル精神医学	西 園 昌 久	医 学 書 院
282	コーフト自己心理学セミナー 1 ミリアム・エルソン編	伊 藤 洸 監訳	金 剛 出 発
283	遊びリレーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上重紀	医 学 書 院
284	青年期の精神科臨床	清 水 将 之	金 剛 出 版
285	プロイラー精神医学総論	切 替 辰 哉	中 央 洋 書 出 版
286	生涯発達学 R. M. ラーナー N. A. ブッシュ ロスナガール編	上 田 礼 子 訳	岩 崎 学 術 出 版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一 編集 橋本いのちの電話 調査研究部 編	川 島 書 店
288	地区は現地ではない	中 沢 正 夫	萌 文 社
289	岩波講座 子どもの発達と教育4 幼年期発達段階と教育1		岩 波 書 店
290	精神医学の臨床研究 サリヴェン	中井久夫、山口直彦、松川昌吾 訳	み ず ず 書 房
291	治療のダイナミックス	轟 俊 一、渡 辺 登	岩 波 書 店
292	心理療法の諸原則 上 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
293	心理療法の諸原則 下 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
294	錯覚と脱錯覚	北 山 修	岩 崎 学 術 出 版
295	サイコセラピー練習帳	丸 田 俊 彦	岩 崎 学 術 出 版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斎藤友紀雄	新 曜 社
297	分裂病の精神病理 16	土 居 健 郎	東 京 大 学 出 版 社
298	森田式精神健康法	長 谷 川 洋 三	三 笠 書 房
299	一般医のための森田療法	樋 口 正 元	太 陽 出 版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本 収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信 著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優 訳	金剛出版
304	無意識1 無意識へのプロレゴメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2 無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3 神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4 無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5 無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神童者の回想録 ダニエル・パウル・シュレーパー著	渡辺哲夫 訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田 晋	思索社
311	分裂病と他者	木村 敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田 尊	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち シンシア・R. フェファー	高橋祥友 訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	〃
316	心理療法論考	河合 伸 雄	新曜社
317	老いのソウロロギー（魂学）	山中 康 裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本 訳	星和書店
319	老人虐待	金子 善 彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田 一 民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上 山 基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三、森田啓吾 横山 桂 子 著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑩乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾 渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ヶ瀬康子 十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ヶ瀬康子 仲村優一、北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田 哲 雄 著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子 杉 浦	ミネルヴァ書房
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
330	逆転移 1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	笠原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスタートソン著 富山幸佐 尾崎新著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎 長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング B・モリス編 高木隆郎 監	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	土居健郎 笠原嘉 宮本忠雄 木村敏責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集 1 分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	“ 2 治療	“	“
344	“ 3 社会・文化	“	“
345	“ 4 治療と治療関係	“	“
346	“ 5 病者と社会	“	“
347	“ 6 個人とその家族	“	“
348	“ 別巻1 中井久夫共著論文集	山中康裕編	“
349	“ 別巻2 H・NAKAI風景構成法	山口直彦編	“
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康 ①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 石崎徹也 小北木啓吉 武田専監修	東海大学出版会
352	“ ②企業と中高年	“	“
353	“ ③企業と家族	“	“
354	“ ④企業と転勤	“	“
355	“ ⑤個人と性格	“	“
356	安永治著作集 1 ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	“ 2 ファントム空間論の発展	“	“
358	“ 3 方法論と臨床概念	“	“
359	精神科リハビリテーションの実際 1	F・N・ワッツ D・H・ ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
360	精神科リハビリテーションの実際 2	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例 私の治療	融道男編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	明文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座 第十巻 文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変動症	S・W・バートン H・S・アキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦 河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4 職場の病	河野友信編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	明文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会 田中英樹他	明文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	“ 1992 Vo3 No1	“	“
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授還暦記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆 中川賢幸編	星和書店
379	臨床心理学体系 ①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄 福島章 他編集	金子書房
380	“ ②パーソナリティ	小川捷之 託摩武俊 他編集	“
381	“ ③ライフサイクル	小川捷之 斎藤久美子 他編集	“
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦編	金剛出版
383	安永浩著作集 症状論と精神療法	安永浩	“
384	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
385	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
386	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
387	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD
388	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
389	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS

定期刊行物

精神医学	医学書院
社会精神医学	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャル・ワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
季刊ゆうゆう	明文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
精神医療	悠久書房
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドブランニング
心理学評論 (Vol32 No1～4, Vol33 No1～4)	心理学評論刊行会
季刊織りハネネットワーク	日本障害者雇用促進協会
IYDP 情報	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会
BOX-916	ボックス 916
心理臨床	星和書店

ビデオテープ

マイクロカウンセリングⅠ 基本のかかわり技法	前編
〃 Ⅱ 〃	後編
老人ボケを防ぐには	
社会人としての言葉使いの基本	
作業療法 生活を拓ける治療と援助	
老人と飲酒	
アルコールと循環器	
肝臓とアルコール代謝	
あと一杯が飲めるか	
与越市つくしの里の実践から	
地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する	
こころの病をかかえて——精神障害者は今	
病院を出て街で働きたい 報道特集 (1987年)	
君は空の青さを知っているか——精神障害者が地域で生きていくために	

平成四年度版 三重県こころの健康センター所報

平成 5 年 9 月 発 行

三重県こころの健康センター
(三重県精神保健センター)

〒514-11 久居市明神町 2501-1
三重県久居庁舎 1 階
電話 0592-55-2151
